

美化活動を通して地域の宝を守る頼もしい後継者

農林水産大臣賞 徳島県 三好市立西祖谷中学校

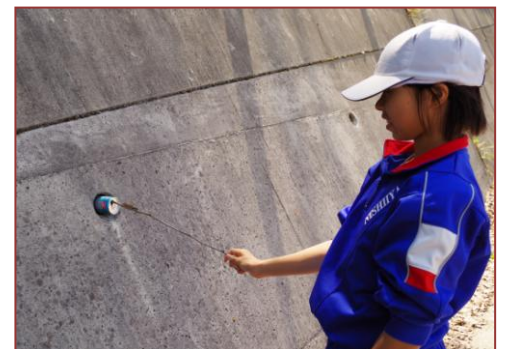
日本三大秘境のひとつに数えられ、平家の落人伝説が息づく祖谷の山里。重要有形民俗文化財の「祖谷のかずら橋」をはじめとする多くの文化財や伝統芸能が残る。そうした豊かな自然や文化遺産が校区に点在する同校では、生徒一人ひとりが後継者の一員としての自覚を持ち、住民とともに地域の貴重な財産を守る取り組みを行っている。

そのひとつが、かずら橋周辺の清掃活動だ。同校の生徒数は現在 12 名。一方で、観光客は年々増加の一途をたどり、国内外から年間約 40 万人が訪れる。生徒たちは力を結集して、急な山道を上り下りしながら 2 時間以上をかけて、道端に散乱しているペットボトルや空き缶などを回収。特に、落石防護壁の水抜き穴には空き缶が何本も詰まっており、毎回苦労しながら抜き取る作業を行うなど、地域の環境を整備する。

観光客に笑顔でかずら橋を渡ってもらいたいと始めた地道な美化活動は、ふるさとを愛する心を育む大きなプロジェクトにも発展している。祖谷のかずら橋は、シラクチカズラで作られているが、近年天然の材料が激減。地域の保存会などが植え付けを行い、育ったシラクチカズラを使ってかずら橋を架け替える取り組みをスタートさせた。そこに同校の生徒たちが率先して加わり、住民の指導を受けながらシラクチカズラの植え付けを行っている。

住民の生徒たちに対する期待も大きく、指導にあたる佐波（さわ）正夫さんは、「かずら橋は 3 年に 1 度架け替えなければならず、1 回の架け替えに 5、6 トンものカズラが必要になります。このかずら橋の保存のために、若い力が注がれるということは、頼もしいことで本当にうれしいです」とあたたかく見守る。

また、総合的な学習の時間では、かずら橋の下を流れる祖谷川の水質調査を実施し、パックテストや水生生物調査などを通して科学的な方法で環境について学ぶ。こうした様々な活動を通じ、生徒たちの心には祖谷の自然や文化遺産を守っていかうという強い意志や、ふるさとへの誇りが芽生えている。



徳島県三好（みよし）市立西祖谷（にししいや）中学校

学校長：山田 泰弘

生徒数：12 名（2014 年 11 月末現在）・全 3 学級

住所：徳島県三好市西祖谷山村東西岡 10 番地

電話：0883-84-1290

アクセス：「大歩危（おおぼけ）」駅よりタクシーで約 10 分

写真上：幽山深くに架かる祖谷のかずら橋、写真上から 2 番目：落石防護壁の水抜き穴の奥に埋もれた空き缶を回収、写真上から 3 番目：かずら橋の歴史について地域の専門家から説明を受ける、写真下：シラクチカズラを植え付ける作業